

玉菜ぐるま

斎藤茂吉

青空文庫

ヨーロッパには、骨^{こつ}格^{かく}の逞^{たく}ましい、実に大きな馬がいる。僕は仏^フ蘭^{ラン}西^スに上陸するや、直^すぐその大きな馬に気づいた。この馬は、歐羅巴の至るところで働いている。その骨組が巖丈で、大きな^{ずうた}図^ず体^{たい}は、駟^{かけ}競^{くら}をする馬などと相対せしめるなら、その心持が勿^{もつ}体^{たい}ないほど違^{ちが}うのであつた。

僕ははまだ童子^{どうじ}で、生れた家の庭^{にわ}隈^{くま}でひとり遊んでいると、「茂吉、じょうめが通るから、ちよつと来てみるま^はず」母はこんなことをいって僕を呼んだものである。なるほど遥^{はる}か向うの街道を騎馬の人が駟^{かけ}歩^{あし}している。駟^{かけ}歩^{あし}する馬の後^{しり}えには少^{すく}しずつ土^{ほり}げむりが立って見える。その遥かな街道は、小山の中腹を鑿^{ほり}開い

たのであるから、やや見上げるようになっていた。

じようめは上馬じようめの義でもあろうか。けれども東北なまりの訛はすでに労働馬と相対あいたいの名に変化していた。その日本の労働馬は欧羅巴くわのに較べるといかに小さい。

僕は維也納ウイennaで勉強をしていて、朝夕にこの大きな馬を見た。馬は、或る時は石炭を一ぱい積んだ車をひいていた。維也納は困っていた時なので、血の気のうすい上かみさんが佇たたずんでその車をしばらく目送している光景などもあった。馬は或る時は麦酒樽ビヤだるを満載して通っていた。或る時は屠ほふった仔牛こうしを沢山積んで歩いていた。仔牛しかばねの屍しかばねの下半身が一行にぶらさがっている。下肢と尾が一樣の或る律動で揺れている。その上段には仔牛の首の方が一行に並び

る。みんな目をつぶつて舌が垂れている。そんな光景もあつた。

大きな蹄ひづめが音立てて街上を踏んでいるのを見ると、寂しい留學生の心はいつも和なごんで来た。馬は或る時はらはらさせるほど賑にぎやかなどところで悠ゆうゆう々と黄いろな尿を垂れているのを、暫しばらくながめていたこともある。そして、三軍疾とく戦はば敵人必ず敗亡せむ。武王いわ曰く、善よいか哉かな。これでなければ駄目だ。こういつてはしゃいだこともあつた。

或る冬の朝、青い玉菜を山のように積んだ箱ぐるまを引いていた。何しろ玉菜の数が多くて、たかだかと虚空こくうに聳そびえているような気がした。僕はこの光景にひどく感服した。ひとりの翁が車上にあつて、二つの馬を馭ぎよしている。鉄てつ鑄さびのような声で馬にもの

いつているが、その単調な語が留学生には分からない。馬の肩のところクムメントに頸くみ圈メントが二つ並んで、その尖さきが上を向いているのは、馬に一種の威容を保たせている。僕は時々その頸圈くみのことも思った。

きょうも教室を出て玉菜ぐるまを見ようと思った。徒歩して先リングず輪街をめぐった。それからドナウ運河を渡り、プラテル街から道を東北に取って、プラテルに來た。ついにドナウの長橋を渡った。そこで市街が絶えて、ようやく村落の趣になった。

僕は疲れてカフェに入り氣のしずまることを欲していた。その時、実に偶然を絶して、大きな玉菜ぐるまが、地ひびき立てて窓前を通った。僕は戸を排し、感心してそれを見た。その時神の加

護ということを思った。次いでこの神は一体 Kosmogonie か Theogonie かと思うた刹那に、何か罪ふかいような気がしてそれを否定してしまった。

青空文庫情報

底本：「斎藤茂吉随筆集」岩波文庫、岩波書店

1986（昭和61）年10月16日第1刷発行

2003（平成15）年6月13日第7刷発行

底本の親本：「斎藤茂吉選集 第八卷～第十三卷」岩波書店

1981（昭和56）年～1982（昭和57）年

初出：「改造」

1925（大正14）年6月14日

※底本巻末の相澤正己氏による注釈は省略しました。

入力：秋谷春恵

校正：高瀬竜一

2018年4月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

玉菜ぐるま

斎藤茂吉

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>